

都市論としての「空港都市」の概念について

—変貌を続ける都市とその現在—

On the concept of "airport city" as urban theory

—A city that continues to change and its present—

○佐村航¹, 田所辰之助²○Wataru Samura¹, Shinnosuke Tadokoro²

Abstract: The building that adapts to the lifestyle of modern people and accepts the diversity of the globalized modern society is the airport. It aims to propose a new city image by analyzing the role of airport in urban theory and studying the concept of "airport city" which seems to expand its function to the surrounding area.

1. 背景と目的

現代における人間の生態行動が把握できる実空間を都市の中に見いだそうとした際に、現代人のライフスタイルに適応し、かつ国際化の進んだ現代社会の多様さを受け入れるビルディングタイプは空港なのではないかと考えた。

国籍のばらばらな人・モノが一つの空間に集約され、国・都市の認可のもとで流入・流出されていく。上野俊哉氏の言葉を借りると、空港はその背後にある巨大で複雑な身体（＝都市）を象徴し、浸透圧をもった被膜のような「都市のメディアスーツ」としての役割を担っていると言える。

極端に計算しつくされたがゆえの明瞭さをもつ空港の空間構造に、機能・情報が複雑に絡み合った現代都市と対をなす合理的な都市としての可能性を追求できるのではないかと考え、「空港都市」という概念のもと、新たな都市空間のプロトタイプを提案することを目的とする。

2. 研究方法

まず、都市理論についての文献を読み込み、空港との関係性を分析する。次に、世界の空港都市の概要、空間構成、立地構造を読み取り、類型化、共通項を抽出する。上記の研究によって浮き彫りとなった現代の空港とその周辺空間、また背後にある都市の問題点を踏まえて、新たな都市像の提案に反映させる。

3. 都市論としての空港

3-1. 空港はグローバル・シティ

グローバリゼーションのもと資本主義が席卷し、人間の存在意識は共同体の一員としての自我から貨幣へと変わっていった。地縁を捨て、共同体からの脱却を図

った現代の人々は複雑化した都市の中を彷徨うように生活している。多様さを受け入れるダイバーシティな要素と、それを内包するための均質さを受け入れるジェネリックな要素を併せ持つグローバル・シティと空港は同様な構造を持つ。

3-2. 空港と都市とのかかわり

空港の役割の変遷を見てみると、軍事・物資基地としての飛行場という側面から、大衆の移動過程においてのインターフェイス的な側面へ、そして今や内外で創出する雇用と利益こそが現代において空港の役割の中でも重要なファクターとなっている。都市はその経済性・合理性に介入せざるをえなくなってきた。空港があたかも都市のように絶えず増築・改築を繰り返す中に都市が介入することで、空港はその都市そのものの建築的ランドマークとなっていく。逆に、都市の性格・ニーズが空港を発展させる。

3-3. モビリティを抑制する装置

空港は様々な境界の結節点であるが上に、都市組織および都市活動の孵化装置であり変速装置となる。ギリシャ以来のアゴラ＝広場としての側面と城壁としての側面が共存している。ここでは、不干渉という表面上の自由さと目に見えない抑止力が混合した新たな活動が生まれる可能性を十分に秘めている。



Figure 1. 古代ローマのアゴラ



Figure 2. バビロンの城壁都市

4. 空港都市の誕生と事例

特に 90 年代以降になると、空港に内包される機能はより都市性を帯びたものとなっている。許容する対象は多様性を増し、利用客は空港での滞在時間を延ばしている。各機能はターミナルという建築単体に収まることなく、周辺地域へと拡張していき新たな都市構造の一部として、貿易や産業、研究や文化の中核をつかさどる。こうして出来る新たな都市を「空港都市」と呼び、現存する空港のそばに構想する潮流が生まれつつある。現段階で構想されている「空港都市」のいくつか事例を挙げ、分析し、共通項を見いだすことで空港都市の構成要素を抽出する。

Tab 1. 「空港都市」の事例と分析表

HIA Airport City / OMA	
	
【敷地面積】 10㎦	
【プランニング】 ビジネス・物流・小売・居住地区と余暇空間	
【特徴】 ①ビジネス地区は交通機関の拠点に配置され人の流動化を促し、居住地区にはホテルと商業その土地で住まう人々のための住宅街が形成される②南北に走って連なる Green Spine は、造園計画がされた公共スペースとして、各地区の人々だけでなく観光客をも結び付け、空港都市のアイデンティティを共有させることを目的としている	
Oslo Airport City Masterplan / Haptic Architects etc.	
	
【敷地面積】 3.7㎦	
【プランニング】 ビジネス・物流・居住地区と余暇空間	
【特徴】 ①持続可能なスマートシティの新しいモデル、電力を自給する最初の空港都市である②自動走行の電気自動車用の外部部に導入、都市内部には車は走らず市民は公共交通機関から5分以上離れることはない③ノルウェー人のスポーツやアウトドア活動への意識も踏まえ、公園を中心とした様々なレジャー活動も創出	
Manchester Airport City / MAG etc.	
	
【敷地面積】 1.2㎦	
【プランニング】 ビジネス街と貨物・物流拠点	
【特徴】 ①マンチェスター空港を輸送拠点から国際的なビジネス目的の地に変えるというビジョン②国際企業の誘致のためのビジネス都市としての色が強い③すぐ近くに緑豊かな住宅地が存在し、「セントラルパーク」という余暇空間が空港と繋ぎ合わせている	

5. 空港都市の構成要素

これまでの文献調査と参考事例の分析結果により、「空港都市」を形作る構成要素をいくつか抽出した。以下に示す。

- ①空港ターミナルの傍、交通機関の結節点に位置する
- ②都市内部では徒歩で移動できる生活圏を形成
- ③主に経済・物流・居住の三地区とそれらを繋ぎ合わせている余暇空間で形成される

- ④背後にある都市のローカルアイデンティティを表現するような性格は持たない
 - ⑤許容する人種は、より国際化し、国籍を超えたコミュニティの形成が図られている
- 以上の5つが特徴的な構成要素として取り上げることが出来た。

6. まとめ

空港は、産業における交通システム進化への希求から構造的な発展を遂げてきたが、現代においては機能的な側面での都市との連携、周辺地域への拡張の必要性が高まってきていることが判明した。また、その中で生まれる身体的な活動が今後の空港運営、ひいては背後にある都市の活発化につながる。ハブ空港の発達が示すように、背後にある都市や構造体としての空港がジェネリックな都市であったとしても、その中の多様性は絶えず更新され都市・人間の生態に還元され続ける。

また、空港都市という概念を借りることで、森の中を彷徨うようにノマド的な生活をする人々に向けた新たな都市空間を提案できる可能性を見いだせた。

7. 参考文献

- [1] ディヤン・スジック /訳=植野斜:「空港都市」、『SD』, No.362, pp17-22, 1994 [2] 山田弘康:「大都市圏における空港計画論」、『SD』, No.362, pp23-28, 1994 [3] 彦坂裕:「テルミナスの模倣-ターミナルをめぐる 100 の半連続的断章」、『SD』, No.362, pp121-128, 1994
- [4] 岡部憲明:「空港の挑戦」、『SD』, No.362, pp161-163, 1994 [5] 上野俊哉:「メディアスポーツとしての空港」、『SD』, No.362, pp167-170, 1994 [6] 多木浩二・大澤真幸:「エアポート」、『10+1』, No.2, pp187-202, 1994 [7] 港千尋:「空港のイメージール」、『10+1』, No.2, pp203-213, 1994 [8] ハンス・イベリングス/訳=佐藤美紀:「スーパーモダニズム」、『10+1』, No.19, pp181-191, 2000 [9] 若林幹夫:「現代都市の境界線-包装される都市と身体」、『10+1』, No.25, pp142-150, 2001 [10] 新井洋一:『世界の新しい空港-新しい時代を拓く“ヒューマン・エアポート”とその商業施設(別冊商店建築 81)』商店建築社, 1996
- [11] 「Oslo airport city」
https://www.architectmagazine.com/project-gallery/oslo-airport-city-masterplan_o(最終閲覧日 2018-08-03)
- [12] 「Manchester airport city」
<http://worldlandscapearchitecture.com/manchester-airport-city-manchester-uk/#.W2E5NfZuJZ>(最終閲覧日 2018-08-03)[13] 「Hia airport city」
<http://oma.eu/projects/hia-airport-city>(最終閲覧日 2018-08-03)
- Figure 1. <https://rampages.us/agora/> より引用
- Figure 2.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%93%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%81%AE%E5%9F%8E%E5%A3%81> より引用